

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



おう

## 王さまダビデ

(その1)



ぶん  
文: Edward Hughes

え  
絵: Lazarus

かいさくしゃ  
改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ  
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ  
出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

©2010 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし  
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、  
また きよか  
又はプリントは、許可されています。



ダビデは、あちらこちらと、にげまわっていました。

おう

ころ

それは、サウル王がダビデを殺そうとさがしていたからです。



あるとき、ダビデはだれも人の住んでいない荒れた地  
に、ものすごく大きいほら穴をみつけましたよ。



にん す  
ダビデは、400人のけらいとそこに住むことにしま  
した。あっ、あぶない！はやくかくれて！



へいし ときどきサウルの兵士たちに、見つかりそうになります。でもね、ダビデは、いつもうまくにげていますよ。



め ひと  
サウルの召しつかいに、ドエグという人がいました。

ひと い  
この人はサウルに、そっと言いました。「じつは

さいし たす  
祭司たちが、ダビデがにげるのを助けたん

し  
ですよ。」それを知ったサウルは、  
めいれいしました。

さいし ころ  
「祭司を殺して  
しまえ！」



め

なか

召しつかいの中で、ただドエグだけが、よろこんでサウルのめいれいにしたがいまして。かれは、

さいし

かぞく

ひどいことに、85人の祭司とその家族みんなを、

じぶん


ころ

自分のつるぎでさし殺しました。

なんてひどいことでしょう。







ひ  
ある日、サウルは、  
ダビデをさがしながら、  
み  
ちょうど見つけたほら  
あな なか はい  
穴の中へ、入ってい  
きました。でもね、  
あな  
そのほら穴には、  
ダビデとけらいた  
ちがかくれていた  
のです。サウルは、  
たった1人でしたよ。



あな

ほら穴の中にかくれていた  
ダビデ、いまがチャンス  
です。かれは、いまサ  
ウルをかんとんに  
ころ  
殺せるのです。  
さあ、

ころ

ダビデはサウルを殺したでしょうか。  
いいえ、そのかわりにね、ダビデは、  
そうっとサウルにちかづき、

とだ

みじかいつるぎを取り出し、ゆらゆらした  
うわぎ きと  
上着のはしを切り取ったのです。



あなたで  
サウルがほら穴から出てい  
ったとき、ダビデはうし  
ろからついていき、サ  
ウルを呼びました。

おう  
「サウル王、

すこ  
ダビデです。少しまえ、わたしは、  
あなたの上着のはしを切り取りました。  
さあ、見てください。



わたしは、あなたを殺  
すことができた。

でも殺さな  
かったのです。

わたしは、あなたをにくむことも、  
しかえ おも  
仕返ししようとも思っていないのです。



じぶん わる  
「なんと自分は、悪いやつだろう。」そのとき、  
ころ じぶん  
サウルは、ダビデを殺そうとした自分を、  
こころ おも  
心からはずかしく思いました。ところが、  
おも だ  
またすぐに、むかしのことを思い出し、  
いか こころ  
ダビデへのにくしみと怒りの心が、  
わいてきました。



そして、またしてもダビデを殺<sup>ころ</sup>そうと、3000人もの  
軍<sup>ぐん</sup>をつくりました。ある夜、サウルの軍<sup>ぐん</sup>がねむっている  
とき、その軍<sup>ぐん</sup>のキャンプに、ダビデと1人の兵士アビ  
シヤイが、そっと軍<sup>ぐん</sup>のキャンプにし<sup>へいし</sup>のびこみました。  
そこでは、サウル王がきもち良<sup>お</sup>さそ<sup>よ</sup>うにねむっていますよ。





「ダビデさま、<sup>かみ</sup>神さまはきょう、

あなたのでき<sup>おう</sup>サウル王を、  
<sup>て</sup>あなたの手にくださっているのです。

<sup>か</sup>勝つことができるのです。」

アビシャイは、<sup>ちい</sup>小さな<sup>こえ</sup>声でさ  
さやきました。「どうぞ、

<sup>おう</sup>サウル王をわたしのやりで、

<sup>ころ</sup>殺させてください。たった一

<sup>ころ</sup>つきで殺せますから。」





けれどもダビデは、きっぱりと言  
い  
ました。「殺してはならない。」  
ころ  
そしてサウルのやりと、水のびんを取り、  
みず と  
そのキャンプから出ていったのです。  
で  
それから、むこうがわにある丘の上まで行き、  
おか うえ  
こんどは大声でサウルにむかってさけびま  
き  
した。サウルに聞こえるまで  
なに  
何どもね。







またしても、サウルはダ  
<sup>き</sup>  
ビデの気もちがわかりました。  
なぜなら、ダビデは、<sup>ころ</sup> <sup>おも</sup>殺そうと思えば、  
<sup>ころ</sup>  
いつでもサウルを殺せたのです。  
<sup>ころ</sup>  
でも殺さなかったのですね。そして、  
<sup>い</sup>  
このときもまた、サウルはこう言いました。



「ダビデ、

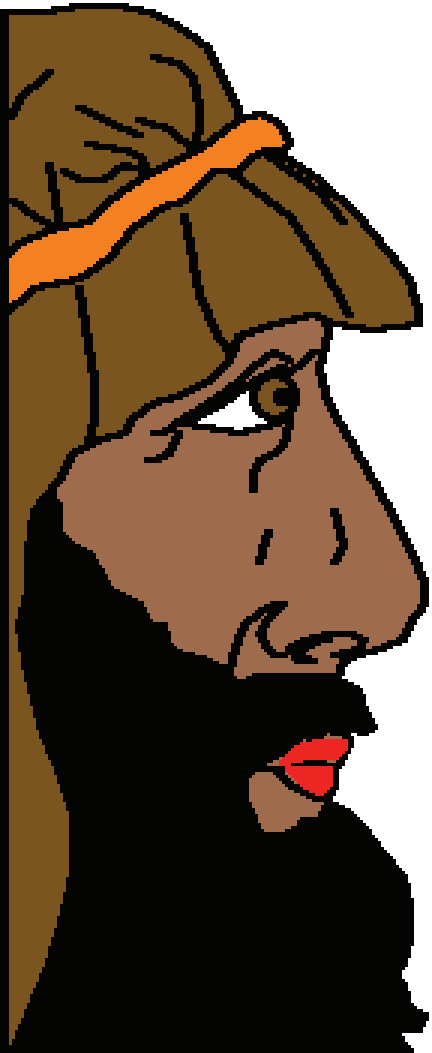
ころ  
あなたを殺そうとしたわたしは、  
わる  
なんて悪いやつなのだろう。」  
ってね。でも、ダビデは、  
もうサウルのことばは、  
しん  
信じられませんでした。

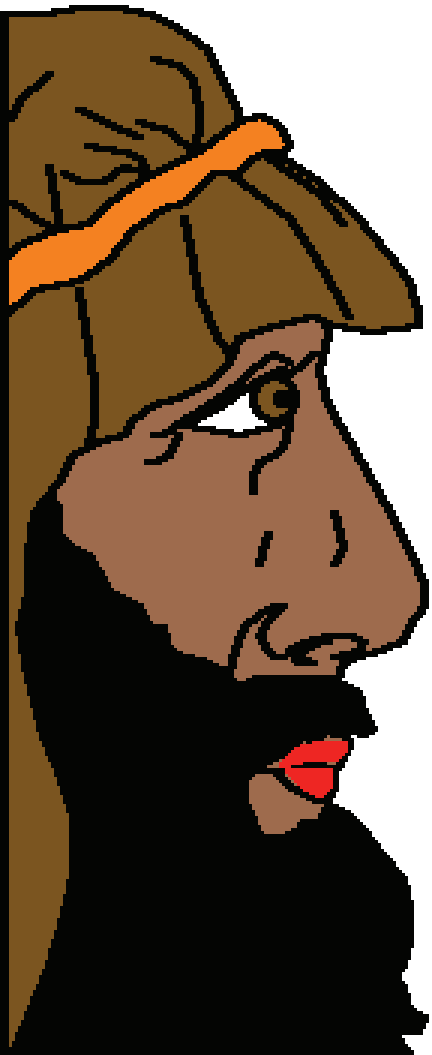


このころ、サムエルはもうすでに亡くなり、  
この世にはいませんでした。このサムエルは、

よげん者<sup>しゃ</sup>でしたね。そのむかし、  
神さまはサムエルにサウルに油そそ<sup>かみ</sup>  
ぎをするように言われたのでしたね。

それからイスラエルの王<sup>おう</sup>として、  
ダビデに油<sup>あぶら</sup>そそぎをするようにね。





さてペリシテ<sup>じん</sup>人が、  
イスラエルをせめてきたときです。

なに<sup>なる</sup>サウルが何かとても悪いことをしました。

それは、神さまが、  
けっ<sup>かみ</sup>決してしてはいけないと  
い<sup>い</sup>言われていたことでした。  
それは、どんなことでしょう。



おんな ひと

い

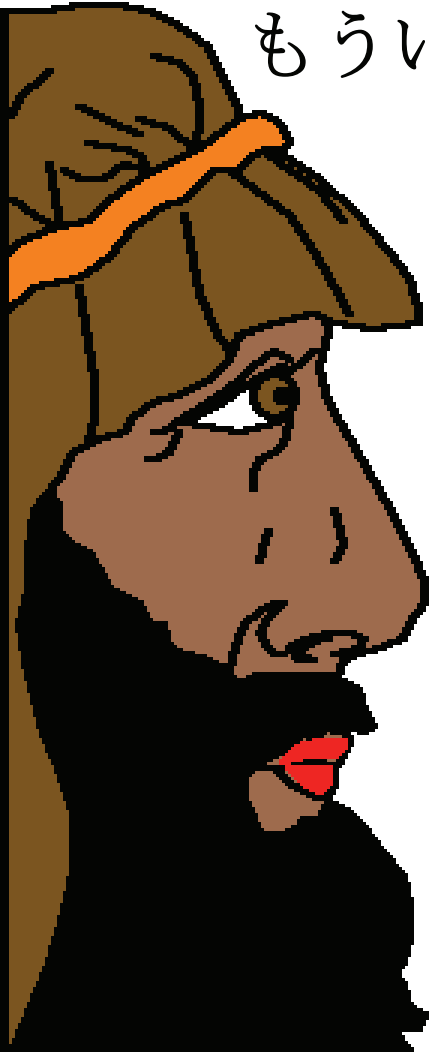
サウルは、ある女の人のところへ行きましたよ。

じょ し

そして、かの女に死んでしまったサムエルを、

よ よ

もういちどこの世に呼ぶようと、  
めいれいしたのです。



よる  
その夜のことで。サウルは、どこからか、  
い き  
こう言われているのが聞こえました。



「・・・サウル、主はあなたから、  
もうはなれてしまわれた。そして、  
てきとなってしまわれたのだ・・・。主は、  
あなたの王国をとりあげられてしまい、  
それを、あなたがよく知っている人、  
つまりダビデにあたえられるだろう。」



また、あすになれば、あなたとむすこたちは、  
し いま く  
死んでわたしが今いるところに来るのだ。

また主は、こうも言われている。  
しゅ い  
また主は、こうも言われている。

イスラエルの軍は負け、ペリシテにすべて  
ぐん ま  
をとりあげられてしまうだろうと。」

き  
これを聞いたサウル、おそろしさ  
のあまり、たおれてしまいました。





じん  
ペリシテ人は、イスラエル

たたか  
とはげしく戦い、  
イスラエルの

おとこ  
男たちはみんな、  
とうとうにげて  
しまいました。



そのとき、ペリシテ人はサウルのむ  
すこたちも殺したのです。  
そう、ダビデ  
のたいせつな友、  
ヨナタンもね。

にん

ころ

とも



ゆみ

サウルもまた、弓でうたれ、

からだ

体じゅうキズだらけです。

そこでかれは、

よろいやかぶとをはこ

ぶけらいに、言いました。

「さあ、おまえのつるぎを

ころ

ぬき、わたしを殺しておくれ。

わる

悪いやつらがやってきて、

わたしをつるぎでさし、

ズタズタにしてし

まわないように。」



けれども、けらいは、<sup>い</sup>言いました。「王さま、  
そんなことするなんて・・・。  
おそろしくてできません。」  
そこで、サウルは、  
<sup>も</sup>持っていたつるぎをぬき、  
<sup>うえ</sup> <sup>じぶん</sup>その上に自分からたおれ  
<sup>し</sup>て死んでしまったのです。





「おい、サウルとむすこたちが  
し  
死んでいるぞ！」かれらを見  
み  
つけたペリシテ人たちは、  
つけたペリシテ人たちは、  
したい  
まち  
その死体をイスラエルの町ま  
ではこびました。そして、  
したい  
サウルたちの死体をこの  
まち  
町のかべにしっかりとはい  
りつけたのです。今、  
いま  
この町は、もうペリ  
まち  
シテのものな  
のですね。





けれども、この町に、まだ何人  
<sup>ま</sup> <sup>なんにん</sup>  
かのゆう気あるイスラエルの  
<sup>き</sup>  
兵士たちがのこっていました。

<sup>へいし</sup>  
これらの兵士は、サウルたち

<sup>したい</sup> <sup>お</sup>  
の死体をかべから下ろし、

<sup>じぶん</sup> <sup>いえ</sup>  
自分たちの家にもってか  
えりました。そして、

<sup>ひ</sup>  
火でもやして、イスラ

<sup>ち</sup>  
エルの地にうめ  
てあげたのでした。❤️



し き  
そのひどい知らせを聞いたダビデ、  
ほんとうにかなしくてた  
まりません。そして、

サウルやヨナタン、神の民

おも  
イスラエルのことを思い、

な ゆうがた なに た  
泣いて夕方まで何も食べま  
せんでした。なぜなら、

し  
かれらはつるぎによって死ん  
でしまったのですから。

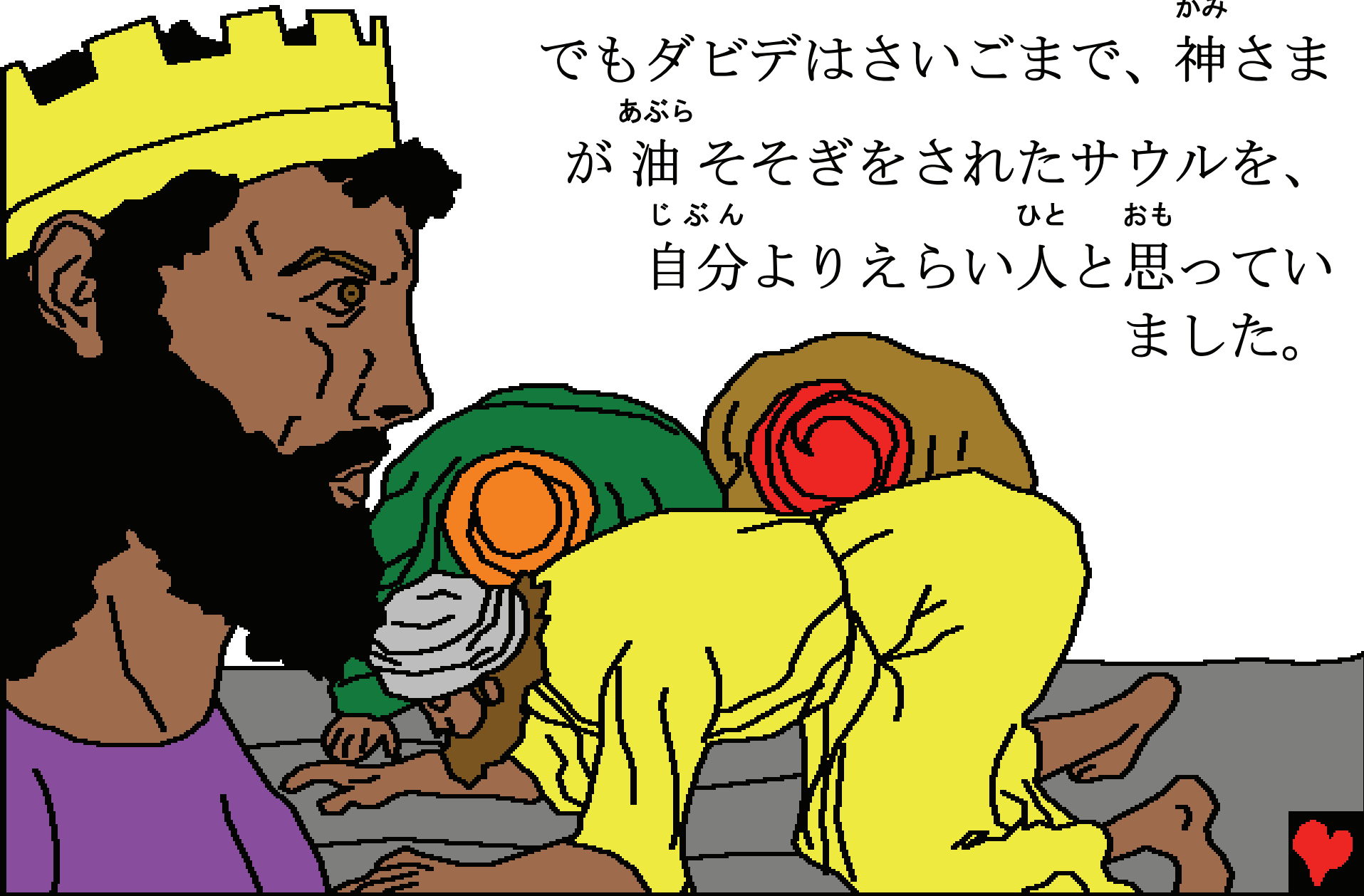


ころ  
サウルは、ダビデをなんども殺そうとしましたね。

かみ  
でもダビデはさいごまで、神さま

あぶら  
が油そそぎをされたサウルを、

じぶん ひと おも  
自分よりえらい人と思ってい  
ました。





いま

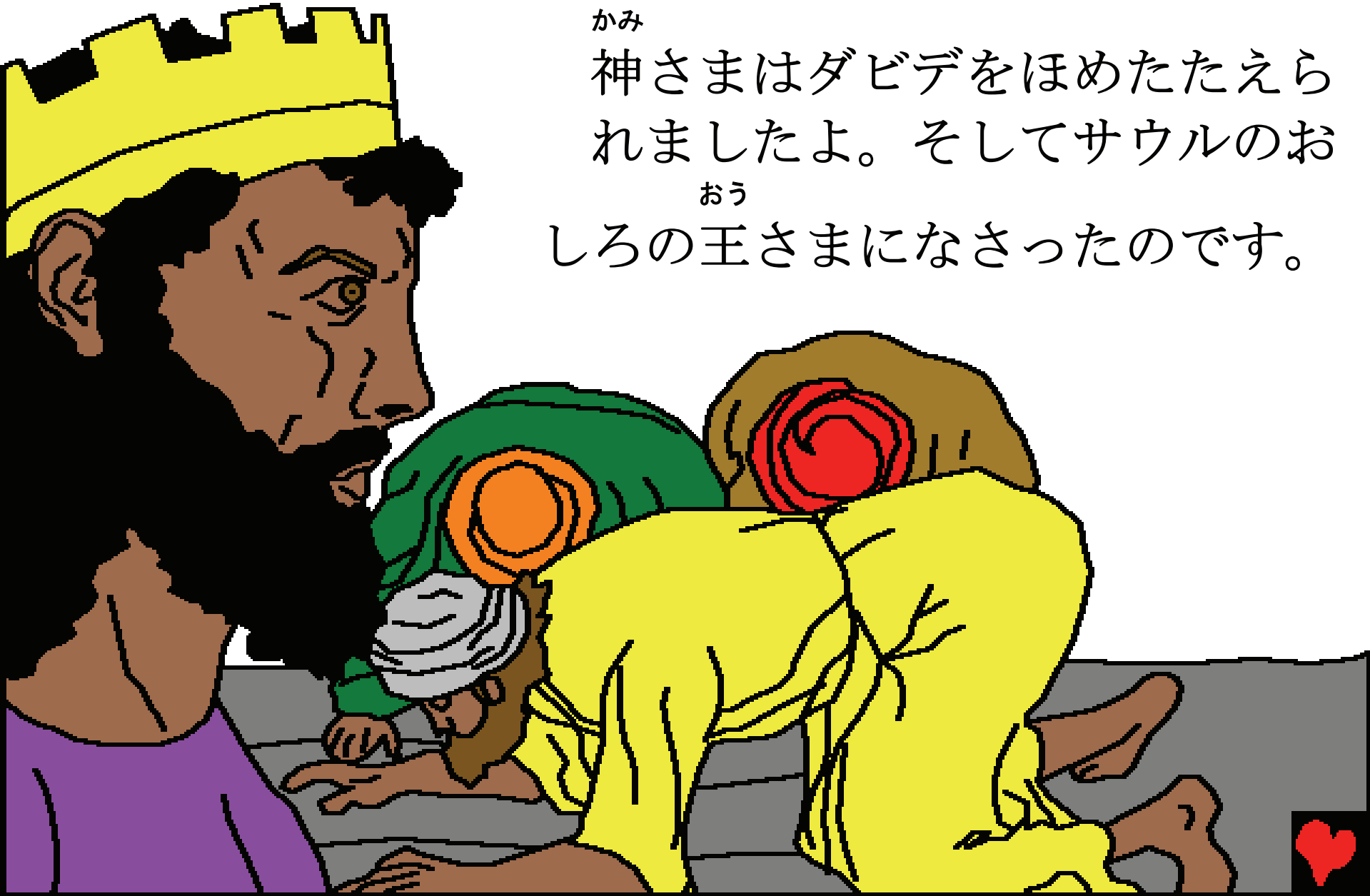
サウルが亡くなってしまった今、

かみ

神さまはダビデをほめたたえら  
れましたよ。そしてサウルのお

おう

しろの王さまになさったのです。



おう  
王さまダビデ (その1)

かみ み せいしょ しる  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

きじょう しょう しょう  
サムエル記上 24 章 - 31 章 ;

きげ しょう しょう  
サムエル記下 1 章 - 2 章

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまに  
かみ かみ  
ついて、おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことを  
おも  
しってほしいと、思っています。

かみ わたし  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しってい  
かみ つみ つみ  
らっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪の  
し かみ あい  
むくい、死です。けれども、神さまは、あなたをととても愛してい  
ひとり こ よ おく  
らっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送って  
つみ じゅうじかじょう な  
くださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられ  
てんごく  
たのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のい  
しん  
えへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆる  
してくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください  
いま ところ き なか  
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に  
す い  
住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生  
きるができますよ。



もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言っ  
てください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人とな  
り、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみ  
がえって、いま生きて

いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるして  
ください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そし  
て、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにい  
ることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子とし  
て生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによ

る福音書 3 : 16

